

時事新報

日本婦人の真似洋服 ドクトル セマンズ原文の譯
余が日本婦人服の事に就て一文を草し之を本年四月廿三日より廿五日に至る三日間の時事新報に載たるは讀者の記憶する所ならん當時余は米國に於ても此大なる問題に注意する者あらんなど考へざりしものと云ふに今米國より最も有名なる婦人達を特に出演の...

美濃温帯氣候の點より評するも善く日本風に仕立てたる日本の婦人服は立派にして上品なるものあり又經濟上より云へば洋服と日本服とを較べて洋服に無益無用の材料多きは一見して之を知る可也又日本婦人は洋服の甚だ不健康にして衛生に爲めに宜しくらざるの備多きを知る可也米國にて有識者なる婦人は何と云ふか其衣裳の風を改め不健康の害を避けんとて思索を逞らすこと既に久しく一朝一夕の談にあらず又同國に名高き醫師の説にも國中に善き婦人の病身は衣裳の風の不真なるに原因するもの最も多くして他の原因の比に非ずと云へり...

電報
○東京の古屋敷裁判所公判 於て大井憲太郎氏...

が押連し居る其際突然檢察官が發言しよりとて大井氏と檢察官との間に一場の劇演を惹起せしが裁判長は終つ檢察官の發言を停止したり
○區部會、檢閱 名古屋七月四日午後特報
常愛知縣區部會は本日急々閉會したり當第三師團長陸軍中將黒川通航氏は本日歸名し、明五日より常師團の檢閲に取掛る等なり
○品川樞密顧問官 靜岡七月四日午後特報
品川樞密顧問官には本日出發今夜金谷驛へ宿泊する等ありと
○檢疫 神戸七月四日午後特報
本日より和田岬に檢疫所を設け香港廈門を経て當神戸に入津する諸船船主對し檢疫と施行することとなりたり
○オムレン公、大軍總長 神戸七月四日午後特報
佛國皇族オムレン公及び佛國大學總長渡邊洪基氏は本日當神戸の近江丸にて歸京の途に就きたり

宮廷録事

○内閣と樞密院 昨四日樞密院の會議日付増上にも臨御在らせられ兩有栖川、小松、北白川の四親王、三條内大臣内閣諸大臣も參列し午後三時頃閉會の後各大臣は更に閣議を開き同四時三十分頃退出したりと
○内閣員更任の噂 農商務大臣は臨時に兼任なれば就任の大任を命ぜらるゝならん、黒田伯が總理大臣に就任せし以來別に閣員中に更任を稱す可程の事もなければ機を視て多少の更迭を來せたらん、司法に陸軍に選任に改革を要するの事ありと云へば近日閣員中に多少の更任を見るならんとは近時世間に行はるゝ噂さなるが或は近日其實行と見るともあるべしと云へり
○外務大臣歸京 大隈外務大臣は本日歸京の都合なりしも一昨三日俄に四日市港出發の名古屋丸にて歸京することとなりしかば加藤、姉小路兩秘書官は昨四日午前八時四十分の汽車にて横濱迄出迎へ同大臣は午前十一時着港して直に歸京する筈なりしかば各局長は何れも新橋停車場に出迎へ其歸京を待居し同大臣は横濱にて午餐を喫し午後四時頃の汽車にて歸京しよりと
○後藤伯 本日午前八時二十分の汽車にて品川停車場より出發し東北地遊の途に上る由同行は大石氏のみにて安藤吉氏は急用ありて故郷土佐に赴くと云ふりし由又同伯は昨日自邸へ知人数名を招き今回漫遊の主意を談話し終りて午餐を饗したりと云ふ
○樺山海軍大官 此程倫敦に到着したるが滞在は凡そ三箇月間の見込にて各所の造船場及び海軍に關する工場を巡覽する都合なりと五月廿五日の倫敦支那エクスプレスに見えたり
○芳川大官 義山山陰道地方の巡遊を命せられたる内務次官芳川顯正氏は屬官二名を隨へ明後七日東京出發の筈なりと
○鶴津忠清公 同公は預て久光公葬送の際朝廷よりの殊恩を蒙る爲め上京中なりしが昨四日舊儀佐土原への歸途に上りしに付鹿児島出身の人々は新橋或は横濱まで見送れりと
○小野田鶴河 小笠原鶴河小野田元次氏は前代にて

電報
○東京の古屋敷裁判所公判 於て大井憲太郎氏...

出京せしが来る十四日横濱出帆の慶河丸にて任所に赴くよし今同氏歸任に際して小笠原鶴河の金玉均氏が前便同氏に托し宿病療養の爲め轉地のことを其筋へ出願せしが右の書面にのりての指令も同氏が持参すべしといふ一説に今回は其筋にても多分金玉均氏の願を許し内地の何れにか移轉せしむるならんといへり
○皇室制度取調掛 元老院書記官合川正道同氏代領の兩氏は昨四日皇室制度取調掛を仰付られたりと
○アノーイ氏 朝鮮王室の顧問官米人アノーイ氏は新任英國總領事參内請見の事付きて意見と異にし職を辭して朝鮮を去り北京に赴きたる由近著の仁川發通信に見ゆ
○モルレンドール氏 義死に朝鮮京城に入込みたる獨逸人モルレンドール氏の舉動に付き種々の風説傳播せしが同氏は去月十八日遂に國王に謁見したるよし仁川發の通信に見ゆ
○山口半六氏 同文部三等技師は第三高等中學校建築工事(京都街東吉田町)檢分の爲め昨四日京都へ向け東京を出發せりと
○村田中野兩氏の遊學 今度歐に依て本官を免せられし元醫科大學助教授村田謙太郎氏は醫學研究の爲め同工科大学助教授中野初子氏は電氣學修業の爲め近々歐洲へ留學するといふ
○宮内官吏の出張 主馬權頭心得侍從藤波言忠、主馬寮勤務新山莊輔の兩氏は昨四日千葉、群馬、福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形の八縣及び北海道へ出張を命ぜられ又京都へ出張を命ぜられたる西四辻侍從は同日出發するよし
○警部長の歸京 去る二日より神奈川縣警察本部に於て一府十縣の警部長會議を開きしとは前報の紙上に記せしが右の會議も一昨三日限り閉會し各縣縣の途に就きたりと云ふ
○ブレイン氏本國に歸る 目下歐洲漫遊中のブレイン氏は獨逸ロイド會社の汽船に乗じて本月十九日にはニューサウサンプトンに發し合衆國へ歸國する筈なりと云ふ
○柳藤壽氏 小笠原鶴河の金玉均氏の安否を訪問し在京知人の消息と通ずる爲め来る十日横濱發の慶河丸に乗込み彼の地に赴くよし
○麗外國人死 在清國芝罘日本領事館麗外國人チーラス氏は去る六月十六日病死せりと
○伊國商人 同國ナール居住の商人アーメンスチー氏は今度新嘉坡、香港、横濱の三港を支店を置き貿易事業を擴張せんとの計畫にて實地觀察の爲め一昨三日横濱へ着港したるよし
○英國の國防大臣 歐洲列國の關係は到底緩急を免かれず開戦の期に至り狼狽を恐るることなからんため英國政府にては先頃より國防の設備を急ぐ海陸軍擴張を急ぐ折柄此頃聞く所によれば新内閣員一名を増加して國防大臣(Minister for Defence)を置き其權内に海陸兩軍を支配せしめ以て此までの如く兩省分離して思ひの牽制をからしめんとすとの議ある由六月九日倫敦發の報に見ゆ

も其際にはありしが聖は諸外國人は買し之を屠殺物を製す致して外人を既に街上を置きて孤り其兩親にる朝鮮人はて萬大實をさる騷動を九日又巨り小兒を販米國宣教師慮ある人々夜に入り人民を便らしめ我が總代又ハ得動機探理公使と共に禁じ次に浮説の出せしめれば仁川に入津し且つ神戶長卸此檢疫所たり此檢疫所方より来る若し患者死通過せしめ如く船中一されば航路病毒の遮断刺病發生し經て来る船より昨四日川縣廳に於員となし相しが右に付觀會館檢疫所は今度

電報
○東京の古屋敷裁判所公判 於て大井憲太郎氏...